

● 夜、客室で目を覚ます主人公。

● 起き上がり、襖を開け縁側に出る。

あ：お兄さんっ

起きられたんですねっ

● 隠かくれが歩いてくる。

お加減いかがですか？

● 寝て元気になったと答える主人公。

そうでしたか

それは何よりです

ごめんなさい

まさか、その：

お風呂であのようなことにな  
るとは思ってもおらず：

お疲れを癒す為

お誘いしたのに：

● 「気持ちよかったからいいよ」と答える主人公。

そう、ですか：

お兄さんがそう仰るなら

はあ：

私なんかが

案内してしまったせいで

その：どう、謝罪したものと：

あ：この後は

お休みになれませんよね？

だって

今までお休みになっていた訳ですし

いくら細くて

体力のないお兄さんでも：

流石に：起きてらっしゃいます

よね？

なので：

夜のお相手は：

欲しくありませんか？

実は、朝の光景で：

隠かくれも物欲しくなって

しまい、まして：

：っ

●二人で客室に入り、襖を閉める

隠かくれは：卑しい子です

見て：ください：

隠かくれの、おまんこ

お兄さんの逞たくましいものを

今か今かと待ち侘びて：

このように…

●隠<sup>かくれ</sup>は服をはだけさせて、音を立てるほど濡れている陰部を見せる。

●隠<sup>かくれ</sup>の体の異変に気づく主人公。

え…？

どうか、されました？

ああ…

これ、ですか

…あの、ですね  
どうやら…

子を、授かった  
みたいなんです

まだ膨らみかけですが…

●「誰の…？」と恐る恐る尋ねる主人公。

へ…？

誰の…と聞かれましたも…

そんな…えへへ

隠<sup>かくれ</sup>、困ってしまいます

お兄さん、意外に  
意地悪なのですね

言わせたいのですか…？

無論、お兄さんの

子供ですよ

子種を下さったでは

ありませんか

●視界が歪み始めて、声が少し不気味に聞こえる。

お兄さんと…隠かくれの

子ですよ…

しっかりして…！

瘴しょうき気に吞まれないで

いい？

今からアタシが言いことを反芻はんすうして

これぐらい雑魚でもできるでしょ

いくわよ…

子供がいるなら

無理はさせられない

隠かくれのことを大切に思えば

今は止めておこう

っ…、そんな

お兄さん：

それは…お気持ちは  
すごく、嬉しいですけど

でも、体が疼いて…つ

子が産まれたら

すぐに次の子を作る

だから我慢してほしい

はうっ…

もう次の子のご予定を…？

ううう…わかりました

そこまで隠との未来を

お考え…なのですねっ

であれば…

隠も…従います

●はだけた服を直し、襖を開けて去ろうとする隠。

では、お暇させていただきますね

先ほどの愛の告白…

とても嬉しかったです

●襖を閉める音が途中で止まる。

でも…

どこか

お兄さんの言葉にしては…

妙に女心おんなこころを組んだ言い回しでした…

まさか、何方どなたか…

●「考えすぎだよ」と諭す主人公。

ああ、そうですよねっ

考えすぎですね…あはは

それでは

おやすみなさいませ…

●襖が閉める音。しばしの沈黙。

どうにか凌しのげたいね…

●声の方に振り向く主人公。

はあ…

前に忠告したのに

全然聞いてないじゃない

仕舞いには姉妹と

風呂場で…ら、乱行とか

頭雑魚なの？

言ったわよね

この里には鬼がいる

祭りが終わるまで

何とか鬼から逃げてって

見たでしょ…あの腹

あれが鬼…

●突然意識が遠のき、めまいに襲われる主人公。

はぁ…どれだけ交わったのか

世話が焼ける…

●主人公が意識を失う。